

令和 5 年 6 月 7 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00579

研究課題名（和文）消滅危機にあるヴァヌアツ無文字言語の解明と辞書編纂

研究課題名（英文）Elucidation and Lexicography of Vanuatu Unwritten Languages in Danger of Extinction

研究代表者

内藤 真帆（NAITO, MAHO）

東北大学・文学研究科・准教授

研究者番号：00784505

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：南太平洋のヴァヌアツ共和国は83の島々からなり、ここではおよそ30万人に100あまりの現地語が話される。本研究が対象とするツツバ語はそのひとつで、ツツバ島でおよそ500人に話される文字を持たない言語である。本研究では現地調査により得られた一次データを基に、ツツバ語の特徴を言語学的に明らかにするとともに、ツツバ語 ビスラマ語（ヴァヌアツ共和国の国語） 英語の3言語辞書の作成をめざした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は話者およそ500人の消滅危機に瀕したツツバ語を現地調査し、得られた一次データをもとにツツバ語 ビスラマ語（ヴァヌアツの国語） 英語の3言語辞書を作成するものである。消滅の危機に瀕する言語の記録と言語学的分析としての学術的意義をもつのみならず、話者コミュニティにおける言語の保存・継承や言語研究を促進するという意義も持つ。

研究成果の概要（英文）：In the Republic of Vanuatu, over 100 indigenous vernacular languages are spoken across 83 islands. Among these languages is Tutuba, which is primarily used on Tutuba Island and has an estimated 500 speakers. This research was undertaken with the aim to document and preserve the Tutuba language. Consequently, a Tutuba-Bislama-English dictionary was compiled, utilising data gathered through periodic surveys.

研究分野：言語学

キーワード：辞書 消滅危機言語

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

### 1. 研究開始当初の背景

南太平洋に位置するヴァヌアツ共和国では、83 の島々で 100 以上の現地語が話される。このうちのいくつかは全く調査されておらず長らく調査が必要とされてきた。本研究は、こうしたヴァヌアツ共和国の言語状況と話者の高齢化、言語継承状況を踏まえ、辺境の地で話されるツツバ語を対象に調査研究を行うものである。本研究テーマは 2000 年初頭に着手し、以後継続して行ってきた、本研究の前段階にあたる調査研究(以後、前段階の調査研究と呼ぶ)に続くものである。前段階の調査研究では、過去およそ 20 年にわたり定期的にツツバ島で現地調査を行い、ツツバ語の一次データを収集してきた。本研究はこれらのデータをもとに、ツツバ語の言語学的特徴を明らかにしながら、ツツバ語 ビスラマ語(ヴァヌアツ共和国の国語) 英語の 3 言語辞書の作成をめざす。

### 2. 研究の目的

ツツバ語はヴァヌアツ共和国のツツバ島でおよそ 500 人に話される、文字を持たない消滅の危機に瀕した言語である。この言語の先行研究は、2000 年初頭の本研究開始時点において Tryon(1976)の著を除き、ほとんど存在していなかった。このような状況のもと、前段階の調査研究では、約 20 年にわたり定期的にツツバ島で現地調査を行い、ツツバ語の一次データを収集してきた。前段階の調査研究における主目的は、文字を持たず、消滅の危機に瀕したツツバ語を言語学的に明らかにし、ツツバ語の記述文法書を作成することであった(2011 年に刊行)。並行してその間およびその後、ツツバ語の 稀少音「舌唇音」、移動動詞に見られる話者の空間認知、

Undercounting から Overcounting への改新について明らかにし、論文発表を行ってきた。これらの前段階の調査研究の成果の上に立つ本研究は、ツツバ語—ビスラマ語(ヴァヌアツ共和国の国語)—英語の 3 言語辞書の作成を目的とする。

本研究が作成をめざす 3 言語辞書は、ツツバ語の見出し語の意味をビスラマ語と英語で記すという、意味に特化した通常の辞書の形式に加え、ツツバ語の例文のすべてを形態素分析し、そのグロス表示を試みるところに特徴がある。そしてそれに続けて、ツツバ語の例文の意味をビスラマ語と英語で説明する。このような構成を可能な限り見出し語ごとに設ける。このように形態素分析とグロス付与を一冊の辞書に加える試みは、消滅の危機に瀕した言語の記録を、可能な限り多く残すことをめざしてのものである。

本研究の 3 言語辞書作成にビスラマ語を用いる理由は、話者の高齢化を踏まえ、将来的にツツバ語を十分に継承していない子孫や未継承の子孫が国語ビスラマ語からツツバ語を知ることができるようにするためである。英語を用いる理由は、研究者や一般の読者が、英語からツツバ語を知ることができるようにするためである。上記 2 点を促進するため、ビスラマ語—ツツバ語の逆引きの項と英語—ツツバ語の逆引きも設ける。

ツツバ語を未継承の子孫や、世界の人々・言語学研究者の存在を意識した構成とし、言語学的な記録を多様な形で世に残すことにより、世界の言語研究を促進することが可能になると同時に、言語の保存・継承にも寄与することが見込まれる。

### 3. 研究の方法

本研究の遂行にあたり、2018 年と 2019 年においては、年に数回、ツツバ島およびその周辺諸島での言語調査を行った。ツツバ島での言語調査は、ツツバ語の一次データを得ることおよびネイティブチェックを目的とした。周辺諸島での言語調査は、ツツバ語と同族の周辺言語を調査し、分析することによってツツバ語の言語学的特徴を明らかにする目的で行った。周辺言語の調査としては、マレクラ島、サント島、ソラ島で現地調査を行い、それぞれの島で話される複数の言語について基礎語彙を収集し、分析を行った。

これらの調査で得られた語彙と分析をもとに、辞書の見出し語作成と例文の形態素分析、グロス付与を行い、辞書化を進めた。

上記のように予定通り海外調査を行うことができたのは最初の 2 年にすぎず、翌年以降はコロナ禍で海外渡航が難しくなったため、現地調査が困難となった。その間には、過去 20 年の現地調査で得た一次データの分析や例文の形態素分析、グロス付与などを集中的に行った。また海洋生物や植物など、過去の調査で得た一次データのうち名称やカテゴリーが不明なものについて、現地で撮影した写真を図鑑と照らし合わせるなどの方法により、名称の特定をめざした。また作成した箇所のネイティブチェックを行った。

#### 4．研究成果

本研究はツツバ語の言語学的特徴を明らかにするとともに、この言語をツツバ語—ビスラマ語—英語の3言語の形で辞書化することをめざすものである。研究成果としては、2018年と2019年に現地調査で得られた一次データ、および過去の現地調査で得た一次データを言語学的に分析・記述し、それにビスラマ語と英語の対訳を設ける形で辞書の作成を行った。その際、意味に特化するのみならず、多様な形で将来の言語研究に寄与できるよう、ツツバ語の全ての例文に形態素分析とグロスの付与を行った。これにより、ツツバ語を十分に継承できていない世代や未継承の子孫はビスラマ語からツツバ語を引くことができ、ツツバ語の保存や継承に取り組むことが可能になった。また英語による記録を残すことで、世界中の人々および研究者が本辞書を利用できるようになった。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 内藤真帆	4. 巻 16
2. 論文標題 Nouns in Tutuba Language (V1)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛媛県立医療技術大学紀要	6. 最初と最後の頁 55-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 内藤真帆	4. 巻 16
2. 論文標題 Nouns in Tutuba Language (V2)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛媛県立医療技術大学紀要	6. 最初と最後の頁 59-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Maho NAITO	4. 巻 16
2. 論文標題 Nouns in Tutuba Language (S-T)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛媛県立医療技術大学紀要	6. 最初と最後の頁 25-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Maho NAITO	4. 巻 16
2. 論文標題 Nouns in Tutuba Language (T-V)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛媛県立医療技術大学紀要	6. 最初と最後の頁 29-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Maho NAITO	4. 巻 15
2. 論文標題 Nouns in Tutuba Language (O-S)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 愛媛県立医療技術大学紀要	6. 最初と最後の頁 25-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Maho NAITO	4. 巻 15
2. 論文標題 Nouns in Tutuba Language (S)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 愛媛県立医療技術大学紀要	6. 最初と最後の頁 29-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------